

研究会の目的・テーマ

本研究会は、文学研究を行ううえで必要な理論的枠組みの習得を目的としている。文学研究の理論や方法も様々であるが、それに加えて、現代において文学研究を進めるうえで、他分野との往還や、他領域の研究手法の参照なくしては研究を促進するのは難しい。

そこで、本研究会は、より広範な研究方法を領域を横断して習得し、各自の研究活動の質的向上を促進することを目的とする。各自の研究手法を紹介・習得するのみならず、他分野で文学を扱う研究する者との交流を通して研究方法を共有し、更に書籍を通して方法的視座を理解することを行う。

領域横断的文学研究会

①研究会が予定通りに開催できず、長期休暇や年度末に集中しての開催となってしまった。むろん授業や論文、学会発表等の都合を優先せざるを得ず、来年度以降はそうした都合を加味したうえでの予定を立てる必要を感じた。

反省点・今後の課題

②研究発表より読書会に比重がおかれることになった。これは相談の上、メンバーの意向から決定したことであるが、①の予定の組み方の不十分さ故でもあるため、以降は改善方法を模索したい。

①自身の研究方法を、発表を通して共有すること（研究発表）

②各自が発表の際に用いた主要な理論的枠組みにかかわる書籍（論文）を講読すること（読書会・ディスカッション）

研究会の主な活動

①では、各メンバーが研究発表を行い、その際に自身の依拠する理論的枠組みを通常の研究発表に加えて解説することを義務付けた。②では各発表の後に、発表者が指定した書籍（論文）をメンバー全員で講読する会を設け、意見交換を行った。

●宮田絵里、金昇淵、栗山雄佑、安藤陽平、岩本知恵「姫野カオルコ「彼女は頭が悪いから」を読む」「クィア理論と日本文学—クィア・リーディングの可能性と実践」）2019/7/10

●宮田絵里「「女」という規範をめぐる—高橋たか子「荒野」論」（日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会）2019/11/24

●金昇淵「The fictional-Reality of actual-Virtuality: Yoko Tawada's Kentōshi (The Enissary)」Doug Slaymaker 編『Tawada Yoko: On Writing and Rewriting』(Lexington Books) 2019/12/15 など。

なお、これらの研究成果はあくまで一例であり、紙幅の都合上記載できなかった多くの成果がある。

研究会の成果の一例